

大和郡山 防災ニュース R6.5月

このニュースは、市内で防災に関わる住民の皆さんに、動きや情報を提供します。

皆さん、自助・共助・公助という言葉はテレビや新聞などで聞いたことがある方も多いのではないかと思います。阪神・淡路大震災で住民同士の助け合いにより多くの命が救われたことをきっかけに知られるようになりました。

これまでも防災出前講座などで災害時の地域の取り組みについて取り上げてきましたが、今回あらためて自治会の基本的な役割や地域として平常時にできることについて考えたいと思います。

自治会の基本的役割

☆安否確認ができること

災害の規模が大きいと、消防へ電話が繋がりにくくなり、またすべての現場に即座に出動することが不可能になります。そういった時、住民同士による迅速な安否確認が多くの命を救うことに繋がります。

過去に防災ニュース(R4.1号 市ホームページに掲載)で、ある自治会の訓練を取り上げましたが、この機会に安否確認について、地域で話し合い、取り組んでいただきたいと思います。

☆安全に避難できること

避難の方法について、平常時より考えていただきたいと思います。「在宅避難」なのか「避難所へ避難」するのか、自宅が安全であれば「在宅避難」も可能です。避難所へ避難する場合は、集団での避難を推奨しています(共に危険な箇所の確認、一緒に行動できる安心感など)。また、在宅避難の場合も自治会で集計し、指定避難所へ届出すれば、支援物資の配給を受けることが可能です。平常時より考えていただければと思います。

地域として平常時にできること

○備蓄品の購入

水、食糧、トイレ処理剤や家庭の備蓄が難しい備蓄品(防災倉庫、消火器、発電機、担架等)を購入し、保管。水、食糧、トイレ処理剤は家庭の備蓄が基本となりますが、災害で備蓄品が取り出せない家庭のため、地域でもいづらか備蓄しておくことが望ましいと考えます。

⇒「自主防災組織活動事業費補助金」をご活用ください！

○訓練の実施

自治会の基本的な役割の中でも触れましたが、いざという時に安否確認ができるよう訓練に取り組んでいただきたいと思います。総会やクリーンキャンペーン等の集まる機会に合わせて行う、また簡単な安否確認訓練であれば続けやすいと思います。



○日頃からの声掛け、コミュニケーション

顔の見える関係ができていなければ、いざという時、声をかけづらいのではないのでしょうか。災害時の避難、助け合いをスムーズにするため、日頃からの声掛け、コミュニケーションを大切にしてほしいと思います。

**自治会などの防災出前講座依頼も受付中！
少人数でも訪問します。災害対策課までご相談ください。**

このニュースは、災害対策課、市内の各支所、矢田コミュニティ会館、南部公民館で配布しています。また、市のHPでもご覧になれます

大和郡山防災ニュース [↗](#)

消防団のニュースは、『大和郡山市消防団へようこそ！』をご覧ください

大和郡山市消防団へようこそ [↗](#)

発行人 市役所災害対策課